

## 実エンドウ新品種 ‘光丸うすい’ の着莢位置と莢品質 ～日当たりを良くすると莢の品質が優れる～

### 1. はじめに

産地で発見された実エンドウの新品種‘光丸うすい’（品種登録出願時の名称：‘みなべ短節間1号’）は、草丈が低く収穫作業等の省力化が期待される品種ですが、秋まきハウス冬春どりの作型では‘きしゅううすい’と同じように栽培すると厳寒期の莢品質が低下する課題があります。これを改善するため、着莢位置と莢品質の関係を調査し、品質の良い莢の生育環境条件を検討しました。

### 2. 試験方法

令和2年9月30日にハウス内に播種した‘光丸うすい’の日表側（日当たり良好）、群落内および日裏側（日当たり不良）に位置する12月1日に開花した花に印を付け、収穫適期に達した時点で収穫して莢を調査しました。また、開花から収穫までの莢の温度も測定しました。

### 3. 試験結果

日中(9:00-14:00)の莢の温度については、日表側で群落内や日裏側に比べて0.8～1.5℃高く推移しました(図1)。莢品質については、日表側で群落内や日裏側の莢に比べて1莢重が重く、空気莢の発生率も少なく、L莢率が高くなりました(表1)。また、成熟日数については、日表側で群落内や日裏側よりもやや短くなりました。

表1 ‘光丸うすい’における着莢位置と莢品質

着莢位置	莢重 (g/莢)	L莢率 <sup>z</sup> (%)	空気莢発生率 <sup>y</sup> (%)	成熟日数 <sup>x</sup> (日)
日表側	9.0	72.2	15.2	70
群落内	7.3	26.8	55.4	74
日裏側	8.3	40.8	49.0	72

注) 加温設定温度5℃

<sup>z</sup>L莢数(子実数4粒以上で極端な欠粒のない莢)/調査莢数×100

<sup>y</sup>2粒以上の肥大不良子実(不受精は除く)が確認された莢数/調査莢数×100

<sup>x</sup>開花日から収穫までの日数

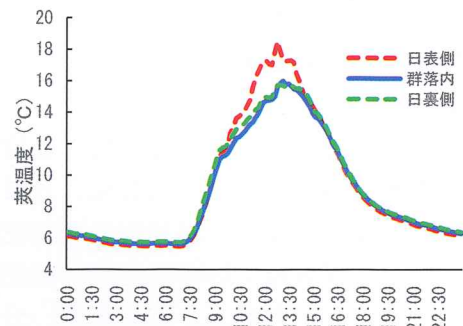


図1 ‘光丸うすい’における莢の着莢位置別の1日の莢温度の推移

注) 12月1日～2月10日の各時刻の平均値  
莢の表面(日表側は直射日光面)におんどとりJr(RTR-502)のセンサー(付属のフッ素樹脂被覆センサー)を接触させて温度を測定

### 4. おわりに

実エンドウの莢品質は着莢位置により異なり、日当たりが良い位置に着莢する莢は、L莢率が高く、空気莢も少なく莢品質が優れました。このことから、莢の受光量を良くし、日中のハウス内を保温することで、莢品質が向上すると考えられました。現在当センターでは‘光丸うすい’の栽培に適した誘引方法や日中温度管理法を検討しています。(育種部 宮前 治加)

農業試験場暖地園芸センターニュース No.53

令和4年1月発行

編集・発行 和歌山県農業試験場暖地園芸センター

〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724

TEL:0738-23-4005 FAX:0738-22-6903

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/003/danchiengineicenter/003.html>